

AWAJI POLICE STATION NEWS

淡路警察署だより 1月号

防災意識の高揚
～災害に備えよう～

1月17日は「ひょうご安全の日」です。

兵庫県では、阪神・淡路大震災の経験と教訓を継承するとともに、いつまでも忘れることなく、安全で安心な社会づくりを推進する取組を広く県民の参画のもとに推進していくことを目的として「ひょうご安全の日」が定められました。

『ひょうご防災減災推進条例』

阪神・淡路大震災の経験と教訓を継承するとともに、いつまでも忘れることなく、安全で安心な社会づくりを期する日として1月17日を「ひょうご安全の日」と定めた条例のこと。

阪神・淡路大震災は内陸で発生した直下型の地震で、神戸市などで震度7を観測し、県内で死者6,000人以上、住家の全半壊240,000棟以上という甚大な被害が発生しました。

阪神・淡路大震災の一番の教訓は

「命を守る」ための備えを続けること

です。

兵庫県には活断層が数多く存在しているほか、今後30年以内に60%から90%程度以上の確率で南海トラフ地震が起きるとされています。

地震はいつ、どこで発生するか分からないため、日頃から「命を守る」行動をシミュレーションし、地震に備えましょう。

ハザードマップの確認 	ローリングストック 	連絡手段の確認 171 (災害用伝言ダイヤル) 
マイ避難カードの作成  出典元：兵庫県	非常持出袋の準備 	防災訓練参加 

地震発生時の行動

自らの命を守る

1 屋内の場合

倒れかかる家具などから身を守るため、防災頭巾や座布団などで頭を保護しながら、テーブルや机の下に逃げ込んで、その脚の部分を押さえましょう。

さらに、ドアを開けるなど脱出路を確保し懐中電灯などの明かりも確保しましょう。

2 屋外の場合

建物、ブロック塀の倒壊や窓ガラスの落下などの危険を避けて、空き地などの安全な場所に避難しましょう。

3 地下街の場合

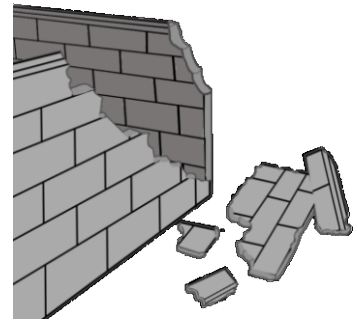
管理者の避難誘導に従い、周囲の人々と協調した冷静な行動をとしましょう。

4 海辺の場合

海のそばで大きな揺れや弱くても長い揺れを感じたら、津波警報や避難指示が出る前でも、自らの判断で近くの高台、頑丈なビルや施設の上に率先して避難しましょう。

津波の前に、海水が大きく引いていく引き波現象が起こる場合があります。

間違っても海の様子を見に行くような行動をとらないようにしましょう。



被害の拡大を防ぐ

1 火災の拡大を防ぐ

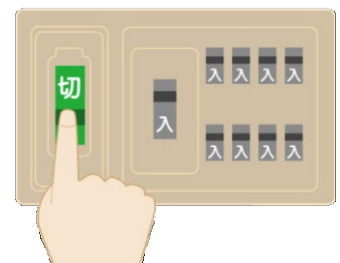
(1) 火元の確認と初期消火

最近のガスメーターの大半は、地震などの非常時には自動的にガスを止めるようになっているので、まずは身をかばった後に火元の確認と初期消火に当たります。

(2) 電気ブレーカーを落とす

地震の際に中断していた電気の供給が再開された時に、つけっ放しの電化製品などに電気が流れ火災が発生することがあります。

避難をする際には、電気ブレーカーを落としましょう。



2 交通の混乱を防ぐ

被災地では、救助活動や消火活動のため、交通規制が行われます。

混乱を防ぐためにも、原則、自家用車での避難は控えるようにし、交通規制、警察官などの指示・誘導に従いましょう。

助け合いの行動

お年寄りや障がい者の方などは、避難の際に周りからの手助けを必要とする場合があります。自らの身の安全を確保するとともに、手助けを必要とする方を援助しましょう。

日頃からの備え

いざというときに備え「気象情報や避難に関する情報をどのように入手するのか」「避難場所はどこで、どのような経路を通って避難するのか」「家族との連絡方法はどうするのか」など、自宅や職場を中心として考え、家族で事前に話し合うことが大切です。

地域ごとのハザードマップの確認や、家具の転倒防止措置、非常持出袋の用意などの備えをしておきましょう。

また、避難所における感染症対策のため、マスクや消毒液、体温計などの衛生用品も準備しておきましょう。

【参考】

兵庫県や市町では、携帯電話のメール機能などを利用して緊急情報（避難指示等）や地震、津波、気象警報等の防災に関する様々な情報を発信しています。

- ひょうご防災ネット（スマートフォン用アプリもあります）

URL <http://bosai.net/>

- 兵庫県CGハザードマップ

URL <http://www.hazardmap.pref.hyogo.jp/>